在日コリアンによる朝鮮語の「名詞的表現」に関して
ー朝鮮学校コミュニティを中心にー

權恩熙(名古屋大学大学院生)・宇都木昭(名古屋大学)

1. 研究背景

朝鮮学校を中心とした在日コリアンのコミュニティ(以下，朝鮮学校コミュニティ)は，およそ半世紀にかけて日本最大の日本語・朝鮮語バイリンガル集団として存在してきている．そこで話される朝鮮語は朝鮮民主主義人民共和国(以下，共和国)や大韓民国(以下，韓国)の影響を受けつつも，本国と断絶されたまま独自に発展し，独特の特徴を多く有するようになった．その特徴のある朝鮮語は「総聯朝鮮語(植田 2009)」「在日同胞式の朝鮮語(朴 2016)」などと呼ばれており，言語接触や第二言語習得の面で非常に注目度が高い．しかし，コミュニティへのアクセスの難しさからか，その実態についてはあまり明らかになっておらず，断片的な指摘や印象論にとどまっているものが多いのが現状である．

2. 研究目的

そこで，本発表では「在日朝鮮語」を特徴づけるモノの実態を究明する第一歩として，実際の発話をもとに朝鮮学校コミュニティによる朝鮮語の「名詞的表現」の特徴を明らかにしたい．ここで名詞的表現とは，「ある事態を表すにおいて，文の各成分，たとえば，主語，対象語，修飾語，述語の中で基本的に名詞の形で登場する場合のこと(林八竜 2004:212)」を言う．朝鮮語は日本語に比べて表現構造が動詞志向的であり，日本語は名詞志向的であることは金恩愛(2003)や林八竜(2004)などで指摘されている通りである．しかし，朝鮮学校コミュニティでは「名詞志向的な朝鮮語」，つまり朝鮮語による名詞的表現が使用されることがしばしばあり，それが在日朝鮮語のひとつの特徴となっている可能性があるのである．

3. 研究方法

分析のための言語資料は，中部地域にある朝鮮学校の中級部授業２個と高級部授業５個を録音したもの，そして朝鮮学校を扱っているドキュメンタリー７点を用いている(表 1，表 2 参照)．具体的な分析方法としては，言語資料の中で韓国の朝鮮語(以下，韓国標準語)母語話者にとって不自然に感じる名詞的表現を取り出し，それらの特徴について考察していく．すべての名詞的表現を扱わずに，韓国標準語母語話者にとって不自然に感じるもののみを扱う理由は，「在日朝鮮語」だけの特徴を浮き彫りにするためである．

表 1 授業談話の目録

	学年	科目名	担当教員の出生地	担当教員の本籍(1 世の故郷)	担当教員の世代	時間
1	中級部	国語(朝鮮語)	愛知	韓国　慶尚南道	3 世	39 分
2	中級部	国語(朝鮮語)	東京	韓国　慶尚南道	4 世	37 分
3	高級部	国語(朝鮮語)	愛知	韓国　慶尚南道	4 世	43 分
4	高級部	国語(朝鮮語)	愛知	韓国　慶尚南道	4 世	38 分
5	高級部	社会	岐阜	韓国　慶尚南道	3 世	43 分
6	高級部	物理	長野	韓国　慶尚南道	4 世	42 分
7	高級部	物理	愛知	韓国　慶尚南道	4 世	42 分

表 2 映像資料の目録

	放映	監督名	プログラム名	映像物の題目	取材学校	時間
1	2005	박기홍	SBS スペシャル 10 話	나는 가요ー도쿄, 제 2 학교의 여름ー (私は行きますー東京，第 2 学校の夏ー)	東京朝鮮第 2 初級学校	61 分
2	2007	박기홍	SBS スペシャル 83 話	도쿄, 제 2 학교의 봄（東京，第 2 学校の春)	東京朝鮮第 2 初級学校	55 分
3	2007	박기홍	SBS スペシャル 95 話	자이니치 60 년 학교 가는 길	東京朝鮮第 1 初中級学校&	53 分

				(在日 60 年，学校に行く道)	東京朝鮮第 2 初級学校	
4	2007	김철민	KBS1TV 열린채널	민족학교에 가다 (民族学校に行く)	京都朝鮮第 3 初級学校	24 分
5	2007	김명준	ドキュメンタリー映画	우리학교 (ウリハッキョ)	北海道朝鮮学校	132 分
6	2007	김명준	ドキュメンタリー映画(DVD 特典映像)	우리학교ー못 다 전한 이야기ー (ウリハッキョー伝えきれなかった話ー)	北海道朝鮮学校	37 分
7	2014	이일하	ドキュメンタリー映画	ウルボー泣き虫ボクシング部ー	東京朝鮮中高級学校	86 分

4. 結果

4.1 一般名詞による名詞的表現

一般名詞による名詞的表現の中で最も多かったのが「kam(感)[1]/kipun(気分)/maum(心)」などの感情類名詞で終わる類型であった．これらの名詞は日本語の「感じ」「気持ち」「気」などに相当するが，現れる表現構造はその様相を異にする．日本語の感情類名詞がコピュラと一緒に述語として使用されることが多いのに対し，朝鮮語の感情類名詞は指定詞を伴って述部に来ることはめずらしい[2]．また，朝鮮語の感情類名詞は主に「tulta((気が)する)」という動詞を伴って現れる場合が多く，さらには感情類名詞を使用せずに「～kes kathta(のようだ)」を用いて表現したほうが自然な場合も多い．しかし，朝鮮学校コミュニティでは「～nun kam/kipun/maum+ita(という気持ちだ)」の形態を用いて感情を表現しており，韓国標準語母語話者に違和感を覚えさせている．そのうえ，「kam」という単語は，韓国標準語では「kami ota(ピンと来る)」「～n/un kam-i issta(～な感じがある)」といった特殊な使い方でしか用いられないため，さらに違和感を覚えさせている．実際，韓国の国立国語院が制作した『韓国語学習者コーパス』においても，日本人朝鮮語学習者が「～nun kam/kipun/maum+ita」を使用する例は一回も見つからない．つまり，この特徴はほかの日本人朝鮮語学習者には現れにくい，朝鮮学校コミュニティ特有の名詞的表現である可能性が高いのである．

(1) a. 在日朝鮮語： motwu chincelhako nappun salam-i eps-nun kam.
みんな 親切で 悪い 人-が いない-連体形 感じ
b. 韓国標準語： motwu chincelhako nappun salam-i eps-nun kes kath-ass-eyo.
みんな 親切で 悪い 人-が いない-連体形 よう-過去-略待丁寧形語尾
[みんな親切で悪い人がいない気がしました．]

4.2 形式名詞「kes[3]」による名詞的表現

4.2.1 分裂文

分裂文は文語体としての性格が非常に強い文型であるため，日本語でも朝鮮語でも口語で用いられることは少ない傾向にある．ただ，先行研究を参考にすると日本語よりも朝鮮語のほうでその傾向はより強いものと考えられる[4]．しかし，本言語資料では発話全体の約 0.41%が分裂文になっており，남길임(2006)における出現頻度より若干高い数値となっている．さらに，その発話たちは韓国標準語母語話者に違和感を覚えさせるもので，分裂文になっていないほうが自然である．

(2) a. 在日朝鮮語： kallaciko iss-nun kes-un sulphu-ki ttaymuney ppalli thongilha-myen cohta-ko sayngkakha-pnita.
分かれている-連体形 の-は 悲しい-名詞化 ので 早く 統一する-仮定 いい-と 思う-上称語尾
b. 韓国標準語： kallace iss-ese sulphu-ki ttaymuney ppalli thongilha-myen coh-kyess-supnita.
分かれている-理由 悲しい-名詞化 ので 早く 統一する-仮定 いい-と思う-上称語尾
[分かれているのは悲しいので早く統一したらいいと思います．]

4.2.2 「～nun kes-ita」

日本語のいわゆる「ノダ文」を直訳したと考えられる「～nun kes-ita」の形態も朝鮮学校コミュニティで観察される．日本語の「のだ」と朝鮮語の対応形式「kes-ita」は「名詞化辞+指定詞」という類似した文法構造を持つが，金廷珉(2007)

---

[1] 朝鮮語のローマ字表記はThe Yale Romanization Systemによる．
[2] 韓国の国立国語院が制作した世宗コーパス(現代朝鮮語口語)においても，「kipun」が述部に来た例は「ta han ke kathun kipun-iya(すべて成し遂げた気分だよ)」「kulen kipun-ieyyo(そんな気持ちです)」のふたつ，「maum」が述部に来た例は「ne maum-iya(あなたの勝手だよ)」のひとつしかなく，「kam」の場合はゼロであった．
[3] 朝鮮語の形式名詞「kes」は，日本語の「こと」「もの」「の」とその意味や機能が類似している．
[4] 日本語日常会話における分裂文を調べた真田・伊藤・菊竹(1998)では発話全体の約 1.83%が分裂文(類似分裂文を含む)であったが，朝鮮語の口語コーパスをもとに分裂文を調べている남길임(2006)ではその出現頻度が約 0.11%に過ぎなかった．

によれば日本語の「のだ」の方が朝鮮語の「kes-ita」より使用頻度が高く，意味範囲が広い[5]という．そのため，日本語のノダ文を「kes-ita」に訳すと不自然になることが生じるのであるが，以下の例がそれに当たる．どれも韓国標準語では形式名詞「kes」を用いないほうが自然である．

(3) a. 在日朝鮮語： hwaksilhi malhayse 勝算-は iss-nun kes-i-nikka.
はっきり 言って 勝算-は ある-連体形 の-コピュラ-理由
b. 韓国標準語： hwaksilhi malhayse 勝算-は iss-unikka.
はっきり 言って 勝算-は ある-理由
［はっきり言って勝算はあるんだから．］

4.3 名詞形語尾「ki」による名詞的表現

朝鮮語の名詞形語尾である「～ki」による名詞的表現も観察される．注目すべきなのは「～ki」の具体的な現れ方であり，不自然と判断された表現のほとんどは，「～ki hata(名詞形語尾＋機能動詞)」の形態をもって動詞の意味を表している．日本語の場合，「答え合わせをする」「読み書きする」などのように連用形名詞がある程度自立性を持っており，機能動詞「する」の目的語として来ることが可能である．さらに，それを持って動作や行為を表すこともできる．しかし，韓国標準語では名詞形語尾による名詞が機能動詞「hata」の目的語として来ることは珍しく，以下の使用例は不自然な表現になってしまう[6]．ただ，こういった「～ki hata」の形で現れる名詞的表現は，以下の例のほかに「sen kuski(線引き)」「hanca um talki(漢字音付け)」「ttala ilkki(真似て読むこと)」などが観察されており，どれも学校の授業に関係している．このことを考えると，「～ki hata」は使用される場面が非常に限定されているのかもしれない．

(4) a. 在日朝鮮語： chayk ilk-ki hay-ss-e?
本 読む-名詞化 する-過去-上称疑問語尾
b. 韓国標準語： chayk ilk-ess-e?
本 読む-過去-上称疑問語尾
［本読んだ?］

4.4 体言止め文

朝鮮語の指定詞「ita」を伴わずに体言で終わる発話がこれに当たる．本言語資料では45例が確認されており，朝鮮学校コミュニティにおける名詞的表現の中で最も多い類型である．これは，金恩愛(2003)で指摘されたことのあるように，日本語の名詞が朝鮮語の名詞に比べ，述語としてより積極的に機能していることが影響しているように考えられる．

4.4.1 一般名詞で止めるもの

朝鮮学校コミュニティで観察される一般名詞止め文は，「形容詞+名詞」の構造を持っていることが多いのが特徴的である．生越(2018)によると，「形容詞+名詞」タイプの名詞止め文は日本語では具体的な事物の他に感覚や行為に対して使われており，その使用範囲が広い反面，朝鮮語では人を罵ったりする定型化された表現を除いては，目の前の状況を表現するのはかなり難しいという．

(5) a. 在日朝鮮語： hakkup-ul hana-lo mukke nakase 「haynakaca」 nun coh-un kihoy.
学級-を ひとつ-に 結んでいって 「やっていこう」 という いい-連体形 機会
b. 韓国標準語： hakkup-ul hana-lo mukke nakase 「haynakaca」 nun coh-un kihoy-ya.
学級-を ひとつ-に 結んでいって 「やっていこう」 という いい-連体形 機会-コピュラ(下称語尾)
［学級をひとつに結んでいって「やっていこう」といういい機会だよ．］

4.4.2 形式名詞「kes(ke)」で止めるもの

日本語の「V こと」を直訳したと考えられる「V kes(ke)」の形態を持って，指示や命令を出している例も観察される．この場合，kes(ke)の前に来る動詞語尾の形態とその使用場面のふたつの面で韓国標準語とは異なる様相を見せている．韓

---

[5] 金廷珉(2007)はその理由について，「韓国語の「kes-ita」における「kes」という形式名詞は日本語の「のだ」に比べて，「もの」「こと」という具体的な名詞としての意味が強く含まれていることが原因であると考えられる」と説明している．李英蘭(2013)でも「ノダに比べてkes-itaの文法化が進んでいない」という記述がある．

[6] この点と関連し，林八竜(2004)は「韓国語の場合，動詞からの名詞形成立は単なる語彙項目の上では存在しても，ある事態の把握において名詞表現の成立は関与しないのが普通である」と述べており，金恩愛(2003)においても「動詞的な重名詞は，単語レベルでは，韓国語でも…(中略)…「存在タイプ」に成りうるが，機能動詞「する」の目的語として用いられる単語結合においては，その対応は崩れ，韓国語ではしばしば動詞構造化する」と述べている．

国標準語にも形式名詞「kes(ke)」を利用した命令表現は存在するが，在日朝鮮語で用いられている「～n/nun kes(ke)」と違い，「～l/ul kes(ke)」の形態を持って現れる．また，その使用場面も文面における告知である場合が多く，口語ではあまり用いられないという点で，朝鮮学校コミュニティにおける使い方は特殊であると言えよう．

(6) a. 在日朝鮮語： onul nayil haksayn-teul-uy tungkyo-lul soco phohamha-ykaciko ilchey emkumha-nta-nun ke.
今日 明日 生徒-たち-の 登校-を クラブ活動 含め-て 一切 厳禁する-引用-連体形 こと
b. 韓国標準語： onul nayil haksayn-teul-uy tungkyo-lul soco phohamha-ykaciko ilchey emkumha-tolok ha-psita.
今日 明日 生徒-たち-の 登校-を クラブ活動 含め-て 一切 厳禁する-ように する-上称勧誘語尾
［今日と明日，生徒たちの登校を，クラブ活動を含めて一切厳禁するようにします］

4.4.3 疑問代名詞で止めるもの

朝鮮学校コミュニティで最も多く観察される名詞的表現の類型である．韓国標準語で疑問代名詞(nuku, eti, mwe など)は，述部において指定詞と終結語尾が結合された「-ya」や「-yeyyo」を伴って使用される(疑問代名詞 way を除く)．しかし，朝鮮学校コミュニティでは，非尊待場面に限り疑問代名詞のみで文を終わらせることが多い．注目すべきなのは，このような使い方は『韓国語学習者コーパス』における日本人朝鮮語学習者の発話で 1 回も見かけないということである．おそらく朝鮮学校コミュニティ特有の名詞的表現として定着している可能性が高い．

(7) a. 在日朝鮮語： ikes-un mwe?
これ-は 何
b. 韓国標準語： ikes-un mwe-ya?
これ-は 何-コピュラ(下称語尾)
［これは何?］

5. 考察とまとめ

조은숙(2007)によれば日本語は「総括走査(summary scanning)」方式で物事を把握する傾向が著しいのに対し，韓国語は「順次的な走査(sequential scanning)」方式で把握する傾向が強く，このような事態認知のズレが日本語は名詞的な表現に，朝鮮語は動詞的な表現に現われ，それぞれ違う表現構造を作り出すという．したがって，朝鮮学校コミュニティで多様な名詞的表現が観察されるということは，彼らの言語的思考のベースが日本語となっているために日本語的な表現になった可能性が高いことを意味する．ただ，日本人朝鮮語学習者には見られない朝鮮学校コミュニティ特有の名詞的表現も存在しており，それは彼らの朝鮮語の学習目的が「アイデンティティの獲得」と「非母語話者同士での会話」であるからと考えられる．日本人朝鮮語学習者は「母語話者との会話」を目標としているため，不自然な表現を使用したとしてもすぐ矯正され，一過性の間違いとして終わる場合が多い．その反面，朝鮮学校コミュニティは前述したように学習目標が特殊であるため，「在日コリアン同士で朝鮮語を使用して会話していれば，それだけで十分誇らしいこと」というふうになりがちな面がある．それが朝鮮学校コミュニティ特有の名詞的表現が頻繁に使用されることに影響を及ぼしたであろう．

参考文献

남길임 (2006). 말뭉치 기반 국어 분열문 연구 형태론, 8(2), 339-360.
조은숙 (2007). 사태인지로 보는 일・한 양국어의 표현구조ー명사적 일본어와 동사적 한국어ー 일본연구, 31, 285-307.
植田晃次 (2009). 『総聯朝鮮語』の基礎的研究ーそのイデオロギーと実践の重層性ー 「正しさ」への問いー批判的社会言語学の試みー(野呂香代子・山下仁編著)第 2 版, 三元社, 111-147.
李英蘭 (2013). 現代韓国語の「-n kes-ita」文の使用条件と文法化についてー日本語の「ノダ」文との比較を中心にー 韓国語学年報, 9, 31-54
生越直樹 (2018). 名詞止め文の日韓対照(ワークショップ 2 省略現象から見えてくることー「磁石」な日本語と「チェーン」な韓国語ー) 社会言語科学会第 42 回大会発表論文集(電子版), 236-238.
金恩愛 (2003). 日本語の名詞志向構造(nominal-oriented structure)と韓国語の動詞志向構造(verbal-oriented structure) 朝鮮学報, 188, 1-83.
金廷珉 (2007). 日本語の「のだ」と韓国語の「KES-ITA」の意味に関する対照研究 東北大学高等教育開発推進センター紀要, 2, 123-133.
真田雅子・伊藤麻友子・菊竹恭子 (1998). 日本語日常会話における分裂文 東京女子大学紀要, 49(1), 85-108.
林八竜 (2004). 日・韓両語の表現構造の対照研究ー日本語の名詞的表現に対する韓国語の動詞的表現を中心にー 日語日文学研究, 50(1), 211-233.
朴浩烈 (2016). 在日コリアンにおける言語アイデンティティと言語生活の諸相 人文・自然研究, 10, 197-227.